

関係を育てる心理臨床

関係のなかで見たてをたてる

～最初の「とき」(出会い)でセラピーがきまる～

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:平成 29 年 7 月 1 日～平成 34 年 6 月 30 日 承認番号:W29111>

期 日：2017 年 10 月 14 日(土)・15 日(日)
 対 象：臨床心理士・看護師・保健師・保育士・相談員・教師など、医療や福祉・教育・相談・子育て支援などに携わっている専門家、大学院生、および関心のある方々
 定 員：60 名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)
 受 講 料：12,000 円(税込み) ※昼食は各自おとりください
 主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団
 会 場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします
 東京都豊島区高田 3-19-10 ☎ 03-3986-7021
 JR 山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約 7 分

*企画講師(敬称略)：田中 千穂子 / 花クリニック 臨床心理士、文学博士
 学習院大学文学部心理学科 教授

人の成長発達を関係性という視点から捉える、という試みでこの講座をスタートさせて 11 年目を迎えました。毎年私の講義と、みなさまから出していただいたケースを検討してゆくというスタイルで行っています。今年は初回面接から数回の間での見たてをたてるという時期の関わりを、ていねいに考えてみることにしました。

私たち心理臨床家は、相談に訪れた人の話をきちんと聴くことによって、まず相手の気持ちを受けとめ、こころを支えようします。そして同時に、その人がどのような問題を抱えているのかということ把握しようとしながらセラピーに臨みます。子どもの場合は、その子どもがプレイルームという場で何をどのようにしたり、しなかったりといったおもちゃやセラピストとの関わりに現れる行動や仕種、表情などをみてゆくことによって、その子どものこころを支え、子どもの抱えている問題を読みとろうとしてゆきます。

これらは「見たてをたてる」といわれていることで、初回から数回の面接の間の重要な作業です。しかしこの時見たてるのは、セラピストだけではなく、クライアントも同様に、全神経をとぎすませて「このひと(セラピスト)はどんな人なのか」を感覚的に捉えてゆきます。そしてこの最初の「とき」が、以降のセラピーの方向性を決定づけるといってもよいのです。つまり、どう相手に捉えられるかで、セラピーの方向性がかなりきまるのです。しかしこの問題はあまり現場で積極的には共有されていないように思います。そこで今回はこの視点をめぐって、ご一緒に考えてみたいと考えました。このテーマに直接、あるいは間接的にでも関わるのではないかと考えられるケースを募集します。どのようなケースでも、この視点からていねいにみてゆくことは可能でしょう。

ぜひ積極的にアプライしてください。

《田中 千穂子》

	日 程	時 間	テ ー マ
プ ロ グ ラ ム	10月14日 (土)	13:00~17:30	初日も2日目も、私自身が考えていることを講義として提示しつつ、提出していただいたケースを織りまぜながら進めてゆきたいと考えています。
	10月15日 (日)	9:00~12:00	同 上
		12:00~13:00	昼 食(各自おとりください)
		13:00~16:00	事例検討・講義ほか

※ 講義の途中、1~2時間の単位で、適宜休憩時間を入れます。

※ 事例の提出締切は9月14日(木)です。用紙につきましては、HPの申込書欄から取りだせます。ご不明の点は、事務局にお問い合わせください。